

JOHA ニュースレター

第39号

日本オーラル・ヒストリー学会第18回大会 (JOHA18) 報告特集

日本オーラル・ヒストリー学会第18回大会 (JOHA18) が 2020年9月13日 (日) に立命館大学を開催校としてオンライン開催されました。また、9月5日 (土) にはプレ企画として研究実践交流会がオンライン開催されました。

今回のニュースレターでは、会員みなさまに、この JOHA18 のご報告をするとともに、3月15日締切の学会誌17号の原稿募集についてお知らせします。また、第19回大会の日程は2021年9月、会場は青森公立大学です。日付とプログラムの詳細は未定ですが、自由報告部会も予定しています。エントリー募集などについては、改めてメーリングリストや学会 HP 上でお知らせいたします。

【目次】

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| I. 日本オーラル・ヒストリー学会第18回大会報告 | 一複合ワークショップ「作品と現地をオンラインでつなぐ」のお知らせ・・・15 |
| 1. 大会を終えて・・・2 | 2. シンポジウム「戦争体験に関する二次証言の可能性」(仮)のお知らせ |
| 2. 大会プレ企画：研究実践交流会「コロナ禍の「声」を記録する」・・・2 | 3. 『日本オーラル・ヒストリー研究』17号原稿募集 投稿規定・・・15 |
| 3. 第1分科会 (環境・文化)・・・3 | 4. 会員異動・・・17 |
| 4. 第2分科会 (戦争・歴史)・・・3 | 5. 2020年度会費納入のお願い・・・18 |
| II. 総会報告・・・4 | |
| III. 理事会報告・・・9 | |
| 1. 第九期第4回理事会 (2021年9月5日) | |
| 2. 第九期第5回理事会 (2021年12月13日) | |
| IV. お知らせ・・・ | |
| 1. ワークショップ JOHA オーラル・ヒストリ | |

.....
*ニュースレター掲載のメールアドレスは、(at) 部分を@ に替えて送信してください。

日本オーラル・ヒストリー学会

Japan Oral History Association (JOHA)

I. 日本オーラル・ヒストリー学会第18回大会報告

1. 大会を終えて

JOHA 第18回大会は、新型コロナウイルスの感染拡大にともない、オンラインでの開催となりました。当学会として初めての試みで、手探りの中で準備が進められましたが、皆様のご助力のおかげで無事終えることができました。

1日開催となった本大会には96名が参加され、2つの分科会では6本の自由報告がありました。ライブでの報告や録画配信、チャットを活用した質疑応答など、通常の大会とは大きく異なる形式でしたが、報告者の方々も直前まで試行錯誤を重ねられ、また参加された皆様も新たな試みに積極的に参加されたことで、とても充実した大会になりました。

zoom 運用に関する技術面では、とりわけ京都大学大学院生の竹田響さんに大きく助けられました。先行して開催された大会プレ企画「研究実践交流会 コロナ禍の「声」を記録するーオーラル・ヒストリーになにができるかー」にも携わっていただき、スムーズな大会運営ができたと思います。

開催校スタッフを代表して、ご協力いただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。来年は青森で皆様とお会いできることを願いつつ、次年度開催校青森公立大学にバトンを渡します。

(第18回大会開催校理事・佐藤量)

2. プレ企画 研究実践交流会「コロナ禍の「声」を記録するーオーラル・ヒストリーになにができるか」

2020年9月5日に大会プレ企画として、研究実践交流会を開催しました。主題に、現代世界を大きく変えているコロナ禍にむきあうために、「コロナ禍の「声」を記録する：オーラル・ヒストリーになにができるか」とかけました。学会初となるオンライン企画は、最大時で89名の参加を得ることができました。非会員や学生の参加も多くあり、今回の主題への関心の高さを示すものでしょう。

コロナ禍において、これまで私たちが慣れてきた聞き取りやフィールドワークはどのように持続できるのか、また、コロナ禍という100年に1度と言われる現在の状況を生きる人々の声を、いかに私たちは記録できるのか、という観点から、次の3つの報告を準備しました。

一つ目が、一橋大学の小林ゼミによる福島県南相馬における相馬之馬追行事を対象とする報告です。この夏、学生らと遠隔地の調査に直接おとずれるまでの経緯に関する報告は大きなインパクトを与えました。二つ目が、安岡が大阪大学で実施した演習における、コロナ禍をいかに生きたのかを身近な人から聞き取る実践で、最後に、琉球大学の野入さんの授業から生まれた、学生自身が自分たちの生活記録をウェブサイトを作成し掲載する実践が紹介されました。以上の取組に対して、関西大学でデジタルアーカイブである、コロナ・アーカイブを運営する菊池信彦さんからコメントを寄せていただきました。小林さん、安岡の報告では演習に関わった大学院生（庄子諒さん、松永健聖さん）の参加を得ました。

報告後、4つのグループに分かれてディスカッションを行いました。そこではそれぞれに興味深い議論

がなされましたが、主催者として最も嬉しかった感想は、励まされた、という参加者の声でした。オンライン授業をはじめとして、数多くの新たな事に取り組みなければならない現在、学会が、個々の会員の研究の発展と同時に、それぞれの取組みを交換し、励まし合う機会を提供する必要性を感じました。授業形態や学費をめぐって「社会問題」として大学が大きな問題となっていますが、聞き取りという方法が培ってきた、人の語りに耳を傾けることの重要性が今ほど必要になっている時期はないのではないのでしょうか。

当日の議論を経て、いま、私と野入さん、佐藤さんが管理人となって、フェイスブックのグループとして「コロナ禍のオーラル・ヒストリー」を作っています。いままだ、方向性を模索しているところなので、ぜひ皆さんにもご助言などいただきながら、充実させていきたいと思っています。

感染状況は日ごと移り変わり、ほんの少し前の状況さえも忘却されていく中、持続するコロナ禍にどのようにオーラル・ヒストリーが向き合えるのか。コメントでも指摘があったように、この事態は世界的な事象です。各地における取組との連動も必要なところでしょう。引き続き皆さんと力をあわせていければ幸いです。

(研究活動委員・安岡健一)

3. 第一分科会

自由報告部会1では、「環境と文化」をテーマに、3つの報告が行われた。

第1報告の有馬絵美子「多雪環境に生きた一住民の記憶：民俗学の視点から」は、長野県飯山市に暮らす1926年生まれ的女性への11度にも及ぶ丹念な聞き取り調査を通じて、雪をめぐる日常経験を描き出した。雪をめぐる苦労や対処のあり方のみならず、雪とともにある暮らしの情景を豊かに描写された。

つぎに、第2報告の中澤英利子「継承語とともに生きる：ブラジル日系コミュニティの日本語教師の語りから」は、従来、教育実践の枠組みから把握されがちであったブラジルの日系コミュニティの日本語講師のライフストーリーを、継承日本語話者として捉えなおすことを試みた。それにより、継承語としての日本語へのニーズが失われつつあるなかでの、日系三世による日本語能力を活かした戦略的生活実践の一端が描き出された。

さいごに、第3報告のJay Alabaster「『ザ・コーヴ』が与えた副次的な影響の語り」は、自分化中心主義と文化相対主義のジレンマの一例としてしばしば参照されるドキュメンタリー『ザ・コーヴ』について、漁師と活動家以外の語りに着目することで、その言説空間の立体化を試みるものであった。イルカ漁に対する賛否が鋭く対立するなかで、ひとびとが自らの常識や主義主張を揺るがされる経験は、「太地町」の多義性を浮き彫りにするものであった。

テーマが多岐に渡っていたため、全体を総括する議論には至らなかったものの、各報告に対して、内容のみならず方法論に関しても複数のコメントが出され、活発な議論が交わされた。

(李洪章)

4. 第二分科会（戦争・歴史）

戦争・歴史をテーマとした第二分科会における報告はいずれも、暴力性をともなう歴史的な出来事の体験や記憶について、素朴な本質主義を脱した形、ないしその複層性を意識した形でアプローチするも

のと感じられた。

第一報告は山本真知子氏による「弔いの場からはじめる—死者から託されたことばを契機とした記憶行為の試み—」であった。沖縄戦体験について、直接的な体験を有さない者たちにとっての記憶継承や、そこにおける「死者たちの介入」について考える内容であった。直接体験者の家族は、ときに暴力的な要素もふくむ親子・夫婦間のやりとりや、赤ちゃんの鳴き声を嫌う様子を見つづけるというような、長期にわたって日々くりかえされる断片を通じ、その向こうにあったであろう「沖縄戦の体験・記憶」の気配を感じとる。そうした子・配偶者の生自体が、戦争の記憶を生きることであるという内容と受け止めた。「直接体験の証言」のみを「なまの記憶」として特権化することを避けつつ「戦争の記憶」を考えつづけるためにも重要な視点だろう。

第二報告は江口千代氏、橋本清勇氏、大庭悠希氏、桜井厚氏による「軍港都市がもたらした子どもの生活への影響—戦中・戦後を生き抜いた人々の語りから—」であった。軍港都市・呉における、軍や進駐軍とかかわりの深かった家族の日常生活を、当時子供だった方々が語る内容が紹介された。戦争体験が、被害者的ないし加害者的なもの「どちらか」に必ずしも分類できないことや、敵対する集団の双方に複雑にかかわる人々の姿が、多様な証言により明らかになってきている。本報告においても、職業軍人の父が戦後に他界したのち、進駐軍のハウスキーパーとして働く母に育てられた方の事例などが紹介され、その生活の複層性が印象深かった。

第三報告は吉本裕子氏による「アイヌ古老のライフストーリー展示から「歴史化」へ」で、2017年から2018年にかけて二風谷アイヌ文化博物館と北海道立北方民族博物館にておこなわれた『エカシの記憶を辿って～昭和のアイヌの暮らし～』展に焦点をあてた内容であった。それまでの「アイヌ展示」においては同化政策以降の情報が少なかった中、この展示はアイヌの言語や文化継承の機会を失った人々のライフ・ストーリーを取り上げるものだったということで、たいへん興味深かった。木材運搬などの仕事経験や労働歌の記憶など、アイヌにつらなる方が送ってきた「一般生活」に焦点が当てられたという。こうした展示は、同化政策の暴力やそれに翻弄された人々がたどってきた生が忘却されることに対抗する手段にもつながるのではないかと感じさせられた。

(酒井朋子)

II. 総会報告

2020年度総会（第17回）

日時：2020年9月13日（日）15：10～16：00

場所：Zoomによるオンライン開催

会長挨拶、議長選出（佐々木てる会員）の後、以下の議案が諮られた。

第1号議案 2019年度事業報告

2019年度（2019.9.1～2020.8.31）事業報告について、以下の諸点が報告され、了承された。

1. 会員数の現状

前回学会以降、2020年3月末までの新規入会者は13名（一般5名、学生他8名）。4月以降の入会は、10名（一般6名、学生他4名）あった。3年間の学会費未納による自動退会者15名、自己申告退会は16名あった。8月31日現在の会員は260名（前回267名）である。これは昨年同時期と比べ7名の減少である。

2. 第17回大会（JOHA16）の実施と第18回大会（JOHA17）の開催

第17回大会は、2019年9月7～8日の2日間にわたって横浜市立大学金沢八景キャンパス（神奈川県横浜市）で開催した。自由報告は4つの分科会に分かれ16本が報告された。大会初日には、映画『禅と骨』上映会の後、研究実践交流会「作品化の手法：伝えること、伝わること、共有すること」、大会2日目には、シンポジウム「〈見えないもの〉のオーラル・ヒストリー」を開催した。2日間でのべ86名が参加した。

第18回大会は、2020年9月12日、13日の2日間、立命館大学での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、13日の1日だけのオンライン開催とする。

3. 実践ワークショップ、シンポジウムの企画（延期）

2020年3月26日、千葉県旭市飯岡地域にて、NPO法人光と風キャンペーン実行委員会の協力のもと、実践ワークショップ「現地と作品を結ぶ3 『語り継ぐいいおか津波』の現場を歩く」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み延期した。

同様に、2020年6月13日、歴史学研究会現代史部会、同時代史学会との共催で、シンポジウム「戦争体験に関わる「二次証言」の可能性——福井県の歩兵第三六聯隊に所属した一農民の体験を事例に考える」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み延期した。

4. 大会プレ企画（研究実践交流会）の開催

2020年9月5日、大会プレ企画として「研究実践交流会 コロナ禍の「声」を記録する—オーラル・ヒストリーになにができるか—」をオンラインで開催した。89名が参加した。

5. 学会誌15号の発行と16号の編集・発行

2019年9月に学会誌第15号を発行し、同月中にインターブックス社から配送した。16号の編集作業は順調に進み、10月の発行を予定している。

6. ニュースレターの発行

ニュースレターは第17回大会後、第18回大会の前に、37号（2020年1月5日）と38号（2020年8月7日）を発行した。広報委員長が編集を担当した。会員メーリングリストでの配信、ならびに学会HPでの公開を行った。

7. ウェブサイトの充実

ウェブサイト（<http://joha.jp/>）を学会事務局と広報委員会が管理運営している。

8. 会員相互の交流の促進

会員メーリングリストを通じた会員相互の情報発信が適宜なされている。

9. 学協会誌の電子化事業

学協会誌の電子図書館事業が 2016 年度に終了となったことに対して、本学会では、2017 年より J-STAGE へ参加することとした。すでに手続きは完了し、JOHA14 号まで Web 上に公開されている。なお、費用などはインターブック社と調整している。

以上

第 2 号議案 2019 年度決算報告

2019 年度 (2019. 4. 1～2020. 3. 31) 決算報告資料に基づき報告され、了承された。

第 3 号議案 2019 年度会計監査報告

岩崎美智子監事と倉石一郎監事より「会計帳簿、預貯金通帳、関係書類一切につき監査しましたところ、正確で適切であることを認めましたので、ここに報告いたします」と報告があり (会計・上田理事による代読)、了承された。

第 4 号議案 2020 年度事業案

2020 年度 (2020. 9. 1～2021. 8. 31) 事業案について、以下の諸点が報告、了承された。

1. 会員の拡大と維持

新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、年次大会やシンポジウムなどを実施し、これらの情報を広報することで、本学会の周知に努め、会員数の拡大を目指す。会員の維持と会費収入確保のため、大会後、年内を目途に郵送による入金状況確認を行い、会費納入の督促を行うと同時に未納退会者を防ぐようにする。

2. 第 18 回 (JOHA18) 大会の実施と第 19 回大会 (JOHA19) の準備

第 18 回大会を 2020 年 9 月 13 日に Zoom によるオンラインで開催する。自由報告は 2 つの分科会に分かれ、6 本の報告を予定している。広報活動として学会 HP に掲載し、学会理事を中心に広報に努めている。

来年度の第 19 回大会については 2021 年秋に青森公立大学にて 2 日間開催予定。

3. 学会誌第 17 号の発行

学会誌第 17 号は、第 9 期理事会の編集委員会によって、シンポジウムと自由投稿をもとにして編集する方針である。また、学会誌の査読体制などの充実を検討している。投稿カテゴリーの見直しを行い、誌面のさらなる充実化をはかる。

4. シンポジウム・ワークショップの開催

延期となったワークショップとシンポジウム、ならびに第18回大会で開催を予定していたシンポジウムについて、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、開催の可否を検討していく。

5. ニュースレターの発行

JOHA18後に大会報告を中心にしたニュースレター第39号を、JOHA19前に大会プログラムを中心にした第39号の発行を予定している。

6. ウェブ情報の充実と改善

学会ホームページをさらに見やすく整備するとともに、適宜更新していく。

7. 会員相互の交流促進

学会HPや会員メーリングリストの活用、ニュースレター配信を通じて、会員相互の交流を促進する。また、会員の出版、活動情報についても学会誌での書評等を通じて積極的に共有する。

8. 海外のオーラル・ヒストリー団体との交流

理事および関心ある会員を中心に、海外のオーラル・ヒストリー団体との交流を促進し、会員に情報提供を行う。

第5号議案 2020年度予算案

2020年度（2020.4.1～2021.3.31）の予算案資料に基づき提案され、了承された。

第6号議案 日本オーラル・ヒストリー学会会則の改訂案

賛助会員と名誉会員に関する会則改訂案が理事会より提案され、了承された。下線部が改定にともなう変更点である。

なお、名誉会員制度の創設に関しては、1：JOHAは、下からの声をくみ上げるという理念のもとで設立されており、名誉会員という形で会員に序列を設けるのは当初の理念と矛盾するのではないか、2：設立準備委員会以前からJOHA設立に尽力くださった人たちの中には、名誉会員の推薦条件に合わない非会員もいる、という意見が出された。2については、発展に尽力くださった方々に報いるため、柔軟に規定を変えていくことができるよう、「本規程の改正は、理事会の承認を得るものとする。」を明文化することとした。1については、ヒエラルキーを作ろうということではなく、JOHAの発展に貢献してくださった方々に敬意をあらわすということでご理解いただいた。

第3章 会員

3 本会は、次の会員をもって組織する。年会費は別に定める。

(1) 正会員は、本会の目的に賛同する個人

(2) 賛助会員は、本会の目的に賛同し、その事業を支援する機関・団体

(3) 名誉会員は、本学会の発展に特に貢献のあった正会員

4 正会員は、次の権利を有する。賛助会員、名誉会員の権利は別に定める。

- (1) 選挙による理事の選出
- (2) 総会への参加と議決権の行使
- (3) 本会発行の連絡・通信の受領
- (4) 本会主催の研究大会やワークショップへの参加
- (5) 機関誌への投稿

資料1 賛助会員規定

賛助会員は、本会の目的に賛同し、その事業を支援する機関・団体で、理事会の承認を得たものとする。
賛助会員（団体の場合その所属メンバー）の資格・権利は、以下のとおりとする。

- (1) 本会主催の研究大会における研究発表および機関誌への投稿をすることができる
 - (2) 本会が発行する機関誌およびニューズレターの配付を受けることができる
 - (3) 本会主催の研究大会やワークショップに参加することはできるが、諸経費は正会員と同様に負担する。団体の場合は、賛助の口数に応じた人数の所属メンバーが正会員と同様の負担で参加できる
 - (4) 学会理事の選挙権および被選挙権、ならびに総会での議決権を有さない
 - (5) 本学会の発行物に広告をだす際に、賛助の口数に応じて割引を受けることができる
- 本規程の改正は、理事会の承認を得るものとする。

資料2 名誉会員規定

名誉会員は、本学会の発展に特に貢献のあった正会員を理事会で推薦する。理事会は、原則として正会員で、次の各号のいずれかに該当する者を名誉会員に推薦することができる。

- (1) JOHA 設立準備委員会委員
 - (2) 会長を務めた会員および理事・監事の職を通算 8 年以上または通算 4 期以上務めた正会員
- 名誉会員の称号贈呈は、次の手続きを踏まえて行われるものとする。
- (1) 理事は、理事会に対して名誉会員にふさわしい正会員を提案することができる
 - (2) 理事会は、理事から名誉会員の提案があった場合には、速やかに審議を行い、名誉会員称号の贈呈が妥当と判断した時には、本人の承諾を得た上で、総会に名誉会員の推薦を行う
 - (3) 総会での議決により承認された正会員に、名誉会員の称号を贈呈する
- 名誉会員の資格・権利は以下のとおりとする。
- (1) 翌年度からの年会費納入義務はないものとする
 - (2) 本会主催の研究大会やワークショップへの参加や研究発表および機関誌への投稿をすることはできるが、諸経費は正会員と同様に負担する
 - (3) 学会理事の選挙権および被選挙権、ならびに総会の議決権を有しない
- 本規程の改正は、理事会の承認を得るものとする。

第7号議案 名誉会員の推薦

新名誉会員として、以下の2名の推薦が承認された。

吉田かよ子 会員

佐渡アン 会員

Ⅲ. 理事会報告

1. 第9期 第4回 JOHA 理事会 議事録

日時：2020年9月5日（土）10：30～12：05

場所：ZOOM ミーティング

出席：赤嶺淳、矢吹康夫、安岡健一、上田貴子、石川良子、佐野直子、塚田守、根本雅也、橋本みゆき、小林多寿子、能川泰治、野入直美、佐藤量、山本恵里子

欠席：今野日出晴

議事録作成：山本恵里子

1. 前回議事録・議事録記載者確認（矢吹）

すでにメールで確認したものとする。

2. 会長挨拶（赤嶺）

赤嶺会長より、本日のプレ企画、来週の年次大会を ZOOM ミーティングで開催する意義、どちらも充実した内容である旨の説明と、成功への祈念が述べられる。

3. 研活委員長挨拶・報告（橋本）

橋本委員長より、プレ企画として安岡理事コーディネートによる研究実践交流会が行われる旨説明される。・近日中に佐藤理事中心にリハーサルの予定。大会では「連絡コーナー」を設け、編集委員会から話してもらう予定。

4. 年次大会について開催校からの報告（佐藤）

佐藤研活委員より大会準備状況について報告がある。本部は、最終的に立命館大学内に設けることとなった。本部用の会議室をレンタルする案はやめたが無料で済んだ。出費はアルバイト2名（立命館大から）のバイト代の人件費程度で済みそうである。近日リハーサルの予定。当日発表者にはホストの権限を与える。

5. 研究実践交流会についての報告（安岡）

何かと模索中だが、協力をお願いしたい。後半のグループディスカッションは分科会形式に近いが、記録を取る。佐藤さんと割り振り、各部屋に理事も入るようにし、記録などに協力する。今の段階で109人が参加予定。会員・非会員の区別は明確ではないが、非会員・学生もいる。会費を取らないので多数の参

加が見込まれる。

赤嶺会長からこれを契機に新たな在り方を模索できることを願うとの発言。

橋本研活委員長から、当日 10 時半以降届いた問い合わせメールには橋本が答えてもよいとのことを確認する。

リンクをクリックしたが開かない、という問い合わせなどもあるかもしれないので、安岡と二人で連携する。

石川編集委員長より、学会誌に本日のイベントの記録を載せるかの件について、字数は 16000 字以内なら、安岡理事が自由に執筆してもらい、掲載することとする。安岡理事より、他の参加者も本日のことを記録に残したいという意見があるので、書きたいがどのような内容かは後に話すこととする。石川編集委員長より、次号 JOHA ジャーナルの原稿締切は来年 7 月（中旬頃）の予定。

橋本兼轄委員長から、来週大会の「連絡コーナー」にて研究実践交流会報告と編集委員会からの行事案内をしてもらうことを安岡理事と石川編集委員長に確認し、了承を得た。

6. 編集委員会からの報告（石川）

投稿規定は英語版を塚田理事が手を入れ、入稿した。その HP へのアップは矢吹事務局長に頼むとのことで、矢吹が了承する。

学会誌最新号は来年 10 月上旬～中旬発行の予定。

7. 広報委員会からの報告（野入）

野入広報委員長から安岡理事に本日の実践交流会について、ニューズレター掲載用の原稿をお願いするとのことで、確認。

7. 会計からの報告（上田）

予算・決算の資料を確認。昨日ワードで監査の岩崎・倉石氏により会計監査が終わったことが報告される。大会当日は二人は参加できないので、監査報告書の代読を事務局長か司会にお願いしたい。会計内容は書式を調整した程度で大きな変更はない。

8. 事務局からの報告（矢吹）

矢吹事務局長より事務局資料を昨日送付してあるが、会員の移動が 1 名あった。総会進行は自由報告部会とほぼ同じだが、投票・承認は以前は拍手だったのを、今回は ZOOM の投票機能を使うこととする。司会者は理事以外の誰かにお願いし、司会はチャットを担当する。投票機能は別の誰かに担当してもらう必要があるので、ホスト(会長)の担当とする。(上田会計委員長によれば会員数は 8 月末現在で 260 名。)投票機能のリハーサルをし、これを大会での投票に使用することを確認した。

議案書では、大会の形態の変更、ワークショップとシンポジウムの延期。研究実践報告会は本日開催、などが書かれていることを確認した。

学会誌は例年通り 10 月に発行予定。学会誌の電子化については、14 号までは既に公開中、15 号は今年 10 月公開予定で予算にも入っている。査読体制の変更点を伝えるかについては、まだ固まっていないので記載しないこととする。「査読体制の充実を検討中」「投稿カテゴリーの見直しの可能性」という形で

伝える。

これから 1 年の研活の予定に関しては、橋本研活委員長より、延期になっているものはこれから開催したいができるとは明言できないため、「状況を見ながら検討する」と説明するとの発言があった。3 月に予定していたが延期となったワークショップは、予算少なめで何かやりたいのと、ハンセン病のシンポジウムも開催したいという希望を持っている。上田会計委員より、研活用予算 10 万円、今度の大会予算 20 万から余るであろう 5 万円と合わせ、約 15 万円が行事に使えるだろうとの発言がある。安岡理事より、来年 3 月なら立命の予算がおりるかもしれないので、主催 JOHA・立命館大学共催で何かを企画する可能性があることが説明され、これか橋本研活委員長と確認し、引き続き話し合うこととなった。

ニューズレターはレベルの充実、会員の相互交流、海外のオーラル・ヒストリー団体との交流促進を目指す旨を説明することとする。

矢吹事務局長より、名誉会員・参与会員についての提案は、会則に関わるので第 6 号議案とし、改訂前・後を載せる。ついでながら、正会員の有する権利の中に「機関紙への投稿の権利」が入ってなかったので、加える。賛助会員にも「投稿の権利」を加えるべきではないかにつき議論する。矢吹事務局長から、医療系の学会では製薬会社などの恣意的な研究成果を出すかもしれないので権限を制限されている説が紹介されたが、赤嶺会長より JOHA ではその懸念がないだろうとのことで、議論の結果、賛助会員も「投稿できる」こととし、「口数に応じて」の文言を残すことが決まった。

橋本研活委員長より、「会員価格」という表現を別のものにしてはどうかという提案があったが、そのままとなった。「会員と同じ負担」

名誉会員の条件については、役職を 8 年以上・70 歳以上・会長経験者などがあるが、年齢制限をつけるかどうかは議論の結果削除することが決まった。本人の自薦は受け付けられないものとする。事務局の方から「名誉会員に推薦したいがどうですか」と連絡をする。設立準備委員だった会員、を始めにもってきて、「いずれかに該当するものを推薦することができる」とする。

矢吹事務局長より、名誉会員の方の資格については、退会した人はどうするかとの問いかけがあり、正会員のままでいたい人はそうしてよいこととする。資格権利は正会員として会費を払っている会員とされるが、(佐渡アン元理事のように 3 年間会費未納で退会となったケースなど) 未納や退会している場合があるので、遡って払ってもらうかとの点を討議した。小林理事は、「名誉会員に推薦するので払ってほしい」というのは良くないので、未納のままでよいのではという提案があった。上田会計委員長も、会誌など受け取っていない点からも未納部分を払わなくてよいとの意見に賛同する。その結果、佐渡元理事にはご本人に意向を尋ね、受けてもらえるなら、未納分は催促しないと決定する。名誉会員になってからの機関誌送付に関しては、J-stage に 1 年遅れでることもあり、送付は不要とする。

②はなし、にする (機関紙送付はしない)

名誉会員に推挙するための推薦文が必要となるが、吉田氏のは小林委員が、佐渡氏のは山本が書くこととする。これを総会にかけることとする。

若手研究者の賞については、赤嶺会長よりまだ全く手つかずとの報告がある。

次回理事会

とりあえず 12 月 13 日（日）13 時～とし、万一の場合は予備日を 20 日（日）13 時～とし、おそらくオンラインで行う。

最後に、上田会計員より、会費を振り込んでいるのに不明な会員として、永田大輔氏（住所不明）、道前氏（未入会）に関して問い合わせがあり、道前氏は佐野医院の指導生でこれから入会予定と判明。

安岡より研究実践交流会は 4 時半終了予定で、終了後の話し合いに理事も参加してほしいことと、「コロナのオーラル・ヒストリー」についてはこれからも続けるため Facebook を立ち上げたことが報告される。会員 60、非会員 50 人が参加の予定で 13 時から開始。

本日の ZOOM ミーティング名が赤嶺になっているので、後で変更することとする。

次週の年次大会の際、理事が立命館に詰めている必要があるのかにつき、上田会計委員より佐藤委員に質問がある。アルバイト学生も 1 人くるので必要ないとの回答。

会長から、ZOOM のホスト権限（共同ホスト）は 10 までであるので、大会のとき佐藤委員に 5 つ、総会用に 2 つを共同ホストに与える旨伝えられる。

12 時 05 分終了。

第 9 期 第 5 回 JOHA 理事会 議事録

日時：2020 年 12 月 13 日（日）13：00～16：05

場所：オンライン開催

出席：赤嶺淳、矢吹康夫、上田貴子、今野日出晴、佐野直子、塚田守、根本雅也、橋本みゆき、小林多寿子、能川泰治、安岡健一、山本恵里子、野入直美

欠席：石川良子

議事録作成：今野日出晴

1. 前回議事録・議事録記載者確認

矢吹理事より、「出席者」の修正あり。その後メールで、確認し修正する。

2. 会長から（赤嶺会長）

学術会議任命拒否問題に関して、理事会の声明を出すことができたが、今後は、学会の声明も含めて、判断の目安、クライテリアを示す必要がある。若手研究者対象の賞について、学会創立 20 周年に向けて、創設したい。次回までに、若手研究者対象の賞と声明を出すにあたってのクライテリアに関して、具体的なたたき台を示したい。

3. 編集委員会報告

根本委員より、第 16 号の進捗状況は、年内に発送の予定と報告された。

他に、11月8日の編集委員会主催 実践ワークショップ：『良い論文』を書く』について報告され、大学院生10名、編集委員5名の参加で、白熱したものであった。特に、査読者は何を視るか、それぞれの専門によって異なる言葉が使われつつ、共通する視点が示され、参加者の参考となった。12月末に、題材となる論文が修正投稿され、再度、ワークショップをおこなう。通常の査読とは異なって、編集委員会で見直し、採否は、また判断する。経費は、オンラインの開催のため、特に費用は発生しない。終了後、院生同士の交流もおこない、ワークショップの試みは、新たな会員獲得へとつながった。

4. 研究活動委員会・大会開催校報告

これからの企画に関して、担当理事より報告、質疑・応答があった。

(1) 複合ワークショップ「作品と現地をオンラインでつなぐ」（橋本理事）

コロナ禍の中でも実施可能なハイブリッド・複合企画。①千葉県旭市飯岡での現地での写真撮影、②オンラインで現地とつなぐワークショップで、受け入れ先（NPO）に負担をかけないかたちで①と②を組み合わせて実施する。3月中旬以降の日曜日で、会場は、飯岡刑部岬展望館を予定。現地とつなぐという開催のありかたを追求し、オンライン技術サポート、交通費、謝金等、費用については、今後研活のなかで検討し、企画を進める。

(2) 戦争体験に関わる「二次証言」の可能性（能川理事）

開催日時については、基調講演者、コメンテーターと6月開催で調整中。事前申込みとし、開催場所は、特定大学ではなく、オンラインでいくつか拠点をつくり実施する。タイムテーブル等は、中止となった本年6月のシンポに準じる。拠点については、現在のところ、北陸（金沢 or 福井）と一橋大学を予定。オンライン技術サポート費、テープ起こし代、旅費・宿泊費、会場費等、必要な経費については、検討し調整する。また、会誌へは、特集の形式も含めて、18号掲載を念頭に改めて調整する。コロナ感染に関わって、開催のかたち、中止の目安についても議論した。

(3) 福島の伝承館に関わっての企画（安岡理事）

具体的には、6月の理事会でつめていくが、企画の意図は、公共の場における「語り」のあり方（行政に批判的な「語り」、表現の自由との関わりなど）について、学術的な検討をおこないたいというもの。ただし、①公共の場の表現規制という視点からは、ヒロシマ・ナガサキ、あるいは、水俣、四日市など、問題の拡がり期待される一方で、逆に、②原発事故10年というなか、福島が背景に退き、伝承館が一つの素材になってしまい、むしろ福島という場をこそ主題にすべきではないかというところでもある。

いずれも、重要なテーマであり、じっくりと案を練って、一つの集大成として、来年9月の大会で、研活の企画として提起したい。

①、②の二つの問題ともに、ワークショップか、フォーラムか、研究実践交流会か、その形式は何をねらいにするかによって決まってくる。例えば、大会前のプレ企画として、福島伝承館を訪ねるという企画も可能。あるいは、伝承館をめぐる、二部構成のフォーラムであれば、第一部は、福島の語りの多層性に、第二部は、伝承館の問題性に焦点をあわせて、二つの問題を関連させながら、問題を開いていくことも可能。大会を東北で開催する意義とも関わって、これから設計していくなかで深めていくことが確認された。

他に、9月研究実践交流会「コロナ禍のなかで『声』を記録する」を特集にするかどうかについて議論

した。原稿化に関しては、前向きに進めていく。編集委員会でも、特集をどうするか、もちかえり検討する。

今年度の大会シンポについて議論した。立命館との共同開催であり、対面を重視していたので、今年度の大会では開催できなかった。その後の進展はないが、大会自体は終了しているので、一旦白紙にして、来年度の j o h a で開催することはしないことが確認された。

5. 広報委員会報告

野入理事より、ニューズレターの原稿依頼と確認がなされた。研活：3月のワークショップは掲載。シンポは詳細をまって、検討。編集：募集要項、投稿規定についての原稿。会計：会費納入、本日の理事会の議事録も含めて、〆切りは、1月10日前後。

6. 会計報告

上田理事より、会計報告がなされた（詳細は資料参照）。資料での代金とは別に5万円ほどのz o o m代がかかり、大会運営費は計13万円ほど。例年の半分程度。

また、再入会について報告があった。3年間会費未納であれば自動退会となるが、3年間は情報提供サービス等をおこなってきた。その後、2年を経て、再入会の申し出の事例であった。退会期間すべての納入ではなく、未納の3年間分の支払いをうけて、再入会を認めることが確認された。

7. 事務局報告

- ・ 会員異動

大会後の入会や、編集委員会主催のワークショップに参加するための入会（詳細別紙）。次の理事選挙の準備が必要。

8. その他

- ・ 若手研究者対象の賞の創設について

声明を出すにあたってのガイドラインも含めて、次の理事会までに用意する

・ 来年度大会は、9月4、5日で青森公立大で開催予定。対面開催とオンライン開催の併用等を調整していく。

- ・ 名誉会員について

理事会から2名推薦され、総会で承認され、吉田かよ子氏は受諾された（佐渡アン氏は現在確認中）

- ・ 投稿規定の改訂については、編集委員会で調整して提案する

次回理事会

日程：2021年6月上旬、土日で調整、オンライン開催

IV. お知らせ

1. JOHA オーラルヒストリー複合ワークショップ「作品と現地をオンラインでつなぐ」

2020年3月に延期していたワークショップを、現地訪問とオンライン配信を組み合わせて開催します。東日本大震災被災者への聞き書き記録集『語り継ぐいいおか津波』の舞台となった飯岡（千葉県旭市）の現在と復興・まちづくり活動実践を知り、各地のオーラルヒストリー実践紹介・交流に参加しませんか。

【開催日】2021年3月14日（日）

【参加プラン】AまたはBの選択肢があります。

・A：現地訪問（募集定員7名）＝11:45 JR飯岡駅集合→現地見学・写真撮影（1時間15分）→昼食休憩→13:40～16:00ワークショップに对面参加（会場は飯岡刑部岬展望館）

・B：オンライン参加＝13:40～16:00 オンライン会議システムZoomによるミーティング

*現地見学先：避難タワー、慰霊碑、防災資料館、津波最高記録碑、タイムカプセル、仮設住宅（現物保存）、我らの波止、かさ上げ防潮堤／遡上防止水門、元禄津波記録（津波標識・浅間神社・波切不動）、飯岡小学校（当時の避難所）、玉崎神社、海津見神社、津波避難道

*ワークショップ内容：写真による現地紹介、NPO紹介、語り部のお話、地域・発信活動（聞き書き集＋かわら版）のお話、双方向的実践交流会。また会場で、震災から10年回顧企画展を開催中。

*A・Bともに参加無料。ただしAの場合、交通費・昼食代は各自負担してください。

【現地受入団体】NPO光と風キャンペーン実行委員会 <http://hikaritokaze.org/>

被災者聞き取り調査記録編集委員会『語り継ぐいいおか津波——被災者聞き取り調査記録集』（2013年、改訂版）や「復興かわら版」（続刊）の発行、復興まちづくり、防災教室等の活動を続けてこられた。聞き書き集の購入希望者はNPOに問合せ、または訪問当日購入。

【問い合わせ先】

・JOHA 研究活動委員会・橋本みゆき（5522825[at]rikkyo.ac.jp）←[at]を@に替えてメール送信ください。

・参加申込先はAプラン／Bプランで異なります。詳細はJOHA会員メーリングリストおよびJOHAのホームページでご確認ください（現在準備中）。

2. シンポジウム「戦争体験に関する二次証言の可能性」（仮）

昨年6月に予定していながら延期することになったシンポジウム「戦争体験に関する二次証言の可能性」（仮）は、今年の6月27日（日）のオンライン開催を目指して準備中です。詳細は後日、JOHA会員メーリングリストおよび学会HPにてお知らせします。

3. 『日本オーラル・ヒストリー研究』17号原稿募集 投稿規定

論文、研究ノート、聞き書き資料、書評、書籍紹介の原稿を募集いたします。投稿希望者は学会ホームページで公開されている最新版の投稿規定・執筆要領を参照の上、以下の編集委員会メールアドレス

まで原稿をご送付ください。投稿に関するお問い合わせも下記アドレスまでお願いいたします。提出原稿は査読審査を経たのち、6月下旬～7月上旬に掲載の可否が決定します。

○ 募集期間：2020年3月5日（金）～15日（月）

※17号から査読体制を変更するため、切が2週間早くなります。お間違えのないようお気をつけください。

※メールの送信ミスや誤配の可能性があるため、募集期間を設けています。余裕を持ってご送付いただきますようお願いいたします。

○ 問合せ・応募原稿送付先：joha_journal(at)ml.rikkyo.ac.jp

（(at)部分を@に替えて送信してください。）

投稿規定・執筆要領の改定を行いました。とくに重大な変更は以下2点です。最新版を熟読のうえ原稿を作成するようにお願いいたします。投稿規定・執筆要領に従っていない原稿は受理できません。

・論文 16,000字～28,000字以内

（★字数の下限を設定しました）

・研究ノート 18,000字以内

※研究の中間報告、予備的考察や試論、研究の着想など、論文の形式には収まらないけれども発表する意義があるもの。

（★研究ノートの位置付けを明確にしました。論文と研究ノートは優劣の関係にありません）

現場からの報告、聞き書き資料の紹介、調査教育実践の報告など、会員の皆さまの幅広い活動に触れられるような原稿をお待ちしています。

『日本オーラル・ヒストリー研究』投稿規定

投稿者は投稿規定・執筆要領を熟読のうえ原稿を執筆してください。また、最新版を学会ホームページに掲載しているので、必ず確認してください。投稿規定・執筆要領に従っていない投稿は受理しません。

① 投稿は会員に限ります。まだ会員でない方は、投稿する前に入会の手続きを済ませてください。なお、入会申込書の受理・会費の納入確認をもって入会手続きは完了します。

② 投稿原稿は原則として日本語か英語によるものとします。

③ 投稿は下記のカテゴリーで未発表のものとし、それぞれ規定の文字数で執筆してください。

なお、表題、英文要旨（論文のみ）、見出し、図表、注、文献リスト等も文字数に含まれます。

・論文 16,000字～28,000字以内

・研究ノート 18,000字以内

※研究の中間報告、予備的考察や試論、研究の着想など、論文の形式には収まらないけれども発表

する意義があるもの。

- ・聞き書き資料、実践報告、研究動向（国内外・回顧と展望）、資料紹介、書評論文等 18000 字以内
※編集委員会が適当と判断したものも、受け付けます。

- ・図書紹介 2,000 字以内

※会員の自著紹介を歓迎します。また、非会員の著書も歓迎します。

（英語論文に関しては執筆要綱を確認、その他は編集委員会に確認してください。）

- ④ 論文の英文要旨は 200 語未満とします。英文の表題と要旨については、希望者には掲載決定後に編集委員会を通じ、校閲作業を依頼します。ただし、この作業にかかる費用は投稿者の自己負担とします。
- ⑤ 原稿は、執筆要領にしたがって、MS Word による横書きとします。審査用の原稿は、Word ファイルおよび pdf ファイル両方のデータを下記の編集委員会のメールアドレスまで電子メールに添付して送付ください。原稿のファイル名は「投稿の日付け_投稿者氏名（ローマ字表記）」とします。

例) 20180331_johataro.doc

- ⑥ 投稿者は別ファイルに、氏名、郵便番号と住所・電話番号、メールアドレス、所属機関と電話番号、投稿のカテゴリーを明記し、電子メールに添付してください。ファイル名は「投稿者」の氏名（ローマ字表記）とします。

例) johataro.doc

- ⑦ 投稿原稿は原則として査読審査を経て、編集委員会が掲載の可否を決定します。また、審査は匿名で行います。したがって、「拙著」「拙稿」などの表現や、研究助成、共同研究者への謝辞など、執筆者と所属機関が特定できる情報は審査用原稿に記載してはいけません。ただし、掲載決定後に送っていただく完成原稿で修正・追記することができます。
- ⑧ 本誌に掲載された論文等は、原則として本誌発行 1 年後に電子公開します。掲載原稿の著作権の一部（複製権・公衆送信権）を、日本オーラルヒストリー学会に譲渡していただきます。著書などに転載する場合や、機関リポジトリ等へ電子データを搭載する場合には、必ず本会の許諾を得てください。
- ⑨ 当該論文の抜刷は、別途、有料にて制作可能です。ただし、50 部単位とし、抜刷の希望者は、初校返送時に編集委員会に申し出てください。

原稿送付先： 日本オーラル・ヒストリー学会編集委員会

joha_journal@ml.rikkyo.ac.jp

日本オーラル・ヒストリー学会編集委員会

石川良子、今野日出晴、佐野直子、塚田守、根本雅也（五十音順）

4. 会員異動

（2020 年 9 月 5 日～2020 年 12 月 13 日）

(1) 新入会員（入会順）

後藤多恵 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程／同志社大学嘱託講師 日本語教師

丹羽宣子 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所 PD 研究員
道前美佐緒 大学教員・大学院生
山田菊子 東京工業大学 環境・社会理工学院 研究員
キム ソニア 京都大学大学院 人間・環境学研究科 博士課程
塩出綾 メキシコ北部国境大学院 国際移民学修士課程
児玉谷レミ 一橋大学大学院社会学研究科修士課程
三浦一馬 日本大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程
坂口奈央 日本学術振興会特別研究員 PD (国立民族学博物館)

(2)再入会

山本唯人

(3)退会：なし

*連絡先(住所・電話番号・E-mail アドレス)を変更された場合は、できるだけ速やかに事務局までご連絡ください。

(事務局長 矢吹康夫)

5. 2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)会費納入のお願い

平素は、学会運営へのご協力をありがとうございます。本学会は会員のみなさまの会費で成り立っております。今年度の会費が未納の方におかれましては、ご入金のほどよろしく願いいたします。

会費のご納入につきましては8月末日までをお願いいたたく存じます。学会誌の一斉発送の時期を過ぎますと、ご納入確認がとれた後に、個別に学会誌発送手続きをとらせていただくことになってしまいます。ご理解のほどよろしく願いいたします。

また、一部ですが2019年度分、2018年度分についても未納の会員さまがいらっしゃいます。こちらも早めのご納入をよろしく願いいたします。

なお、所属機関名義で振り込まれる場合は、別途、会計宛に入金した旨をご連絡ください。

■年会費

一般会員：5000円 学生・その他会員：3000円

*「学生・その他会員」の「その他」には、年収200万円以内の方が該当します。区分を変更される場合は、会費納入時に払込票等にその旨明記してください。

*年会費には学会誌代が含まれています。

■ゆうちょ銀行からの振込先

口座名：日本オーラル・ヒストリー学会

口座番号：00150-6-353335

*払込取扱票（ゆうちょ銀行の青色の振込用紙）の通信欄には住所・氏名を忘れずにご記入ください。

*従来の記号・番号は変わりありません。

■ゆうちょ銀行以外の金融機関から振り込む際の口座情報

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019

店名（カナ）：〇一九店（ゼロイチキュウ店）

預金種目：当座

口座番号：0353335

カナ氏名：（受取人名）：ニホンオーラルヒストリーガツカイ

郵便払込・口座振込の控えで領収書に代えさせていただきますので、控えは必ず保管してください。必要に応じて、個別に領収書も発行させていただいておりますので、その際にご連絡下さい。その他、学会会計全般についてご質問等ございましたら、会計担当の上田(uedanota(at)kindai.ac.jp)までお問い合わせください。

（会計 上田貴子）

.....

日本オーラル・ヒストリー学会

Japan Oral History Association (JOHA)

JOHAニューズレター第39号

2021年1月22日

編集発行：日本オーラル・ヒストリー学会

JOHA 事務局

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学社会学部矢吹康夫宛

日本オーラル・ヒストリー学会事務局

E-mail joha.secretariat(at)ml.rikkyo.ac.jp

*郵送またはメールでのご連絡をお願いいたします。
